

## AEON MALL JAKARTA GARDEN CITY x YOSHIMOTO KREATIF INDOENSIA presents 第一回 Manzai Contest



### — [ イベント概要 ] —

「AEON MALL JAKARTA GARDEN CITY x YOSHIMOTO KREATIF INDOENSIA presents 第一回 Manzai Contest」

予選：2018年 9月30日(日)

決勝：2018年10月13日(土)

会場：AEON MALL JAKARTA GARDEN CITY

2018年9月29日(土)～10月21日(日)にかけて、吉本クレアティブインドネシアがインドネシアのイオンモール2号店に当たるジャカルタガーデンシティ店との協働で開店1周年記念イベント「AEON MALL JAKARTA GARDEN CITY 1st Anniversary」を企画。

その中で新たな試みとして「漫才コンテスト」を実施しました。

インドネシアにはそもそも漫才という概念はなく、スタンド・アップ・コメディが主流です。

よって今回、漫才をインドネシアのコメディアンたちに説明するところから始めました。

インドネシア住みます芸人の濱田大輔、浦圭太郎(ザ・スリー)、そこらへん元気の3名が、インドネシアのコメディアン Asep Suaji 氏と共にジャカルタ周辺のスタンド・アップ・コメディ・コミュニティを一つ一つ訪ねて周り、制作した漫才説明ビデオを使用しながら、漫才のやり方、哲学、歴史などを説明しました。

その試みの甲斐もあり、9月30日(土)に行われた予選会には15組がエントリー。

センターマイクを挟んで、それぞれの形での漫才を繰り広げました。

審査員は浦圭太郎、そこらへん元気、Asep Suaji、Ridwan Remin(共にインドネシアのコメディアン)が担当。

予選会では漫才の意味を完璧に理解していないコンビもありましたが、中でもコンセプトをしっかりと踏襲し、漫才の形を成しているコンビも何組も見受けられました。

集まったお客さんも、初めて見るスタイルの「笑い」に最初は戸惑いながらも徐々に慣れ始め、最後には手を叩いて笑う姿も見受けられました。

エキシビジョンとして濱田大輔が Asep Suaji と、浦圭太郎が Sifa(インドネシアの一般人)とコンビを組み、漫才を実際に披露しました。

10月13日(土)に行われた決勝戦には予選会を勝ち抜いた10組が出場。

審査員は濱田大輔、山口健太、Asep Suaji、Arif Brata(共にインドネシアのコメディアン)が担当。予選会よりも漫才に慣れた出場者たちが、優勝の日本往復チケットを目指ししのぎを削り、予選会と同じネタでその完成度を磨いて来たコンビ、新ネタに挑戦するコンビとに別れました。

優勝は、少し前にジャカルタで行われた市長選挙を題材に、対立する候補同士の言い合いの中で風刺も交えながら笑いを取った Ginseng Bawang(ギンセンパワン:人參ニンニク)の二人。ネタの形式もしっかりとボケとツッコミに別れて漫才の形を踏襲しており、コンセプトをしっかりと守っているという意味で優勝に輝きました。

準優勝の Satanic(サタニック:魔王)の二人は笑いという意味ではもっとも会場から大きな声援を受けていましたが、漫才の形というよりは二人のスタンドアップコメディアンが交互に話をするという形式だった為、準優勝となりました。

3位から優勝チームの発表までは会場が大いに盛り上がり、コンビの名前が発表される毎に悲喜こもごも大きな歓声が上がりました。

全ての賞の発表後にはこの企画を代表として引っ張ってくれたインドネシアのコメディアン Asep Suaji 氏より総評があり、より漫才のコンセプトに忠実にネタを行なった為ギンセンパワンが優勝に輝いたこと、これからインドネシアで漫才のコンセプトが流行していく期待を述べて頂き、初の試みとなった漫才コンテストは幕を閉じました。

これを契機に、今後もよしもとクレアティブインドネシアとしては「MANZAI」をインドネシアに浸透させていくべく、引き続きコミュニティへのアプローチを続けていくと共に、第二回の漫才コンテスト実施に向けて、企画を練っていく予定です。

今後ともご支援をどうぞよろしくお願いいたします。